

### ■つながりの重要性

国主導による国土の均衡ある発展によって、わが国の社会資本整備や生活環境水準は全国的に向上し、ハード面から見ると、国土の均衡ある地域開発はほぼ達成されたといえる。現在は、地域経済を内発的かつ地域独自の資源で活性化させ、かつ多様化する地域固有のニーズにきめ細やかに対応していくことが一層求められる時代に入った。そのためには国に頼らない、自主的な地域経営への移行が急務となっているが、国から地方への権限や税源の委譲は依然として進まず、さらに地域社会における近所間の助け合いや付き合いが希薄となる中で、地域住民自らの知恵と資源を活かした地域経営を進めていくことはますます困難となりつつある。

住民一人ひとりが、老いも若きも安心して充実した生活を享受できる、そして自らの知恵と資源を生かして地域を活性化できる地域社会の実現には、そこに住む人と人とのつながり、人

## 地域経営資源として注目

### 豊かな人間関係こそ

### 地域活性化の原動力

間関係が不可欠である。このような背景のもと、国内においてもソーシャル・キャピタル(以下、SC)に対する注目や期待が高まりつつある。直訳すれば「社会資本」となり、道路や橋といった社会インフラのこのようであるが、欧米などでは政治学、社会学、法学、経済学そして経営学といった様々な分野でこの数年流行語となっている言葉である。わが国では「社会的資本」「社会関係資本」が大きな契機となり、90年代後半から多くの研究者の強い

#### ■SC概念

SCという概念は、アメリカの政治学者R・D・パットナムによるイタリアの研究「Making Democracy Work」(邦題:『哲学する民主主義』)とアメリカの研究「Bowling Alone」(邦題:『Bowling Alone』)が大きな契機となり、90年代後半から多くの研究者の強い

#### パットナムによるイタリアの研究

|             | イタリア北部の州 | イタリア南部の州   |
|-------------|----------|------------|
| コミュニティ活動    | 活発       | 停滞         |
| ネットワークの特徴   | 水平的      | 垂直的        |
| 主な価値観       | 連帯、参加、統合 | 規制、無力感、疎外感 |
| ソーシャル・キャピタル | 良好に機能    | うまく機能せず    |

「結合型」は組織の内部における人と人との同質的な結びつきで、内部で信頼や協力、結束を生むものである。これに対し、「橋渡し型」というのは、異なる組織間における異質な人や組織を結び付けるネットワークであると考えられている。

一般的には、結合型は社会的な接着剤とも言えるべき強いきずな、結束によって特徴づけられる、内部志向的であると考えられる。このため、この性格が強すぎると「閉鎖性」「排他性」につながり、閉鎖性も強すぎる。これに對しては、より弱い

「結合型」というものである。「結合型」は組織の内部における人と人との同質的な結びつきで、内部で信頼や協力、結束を生むものである。これに対し、「橋渡し型」というのは、異なる組織間における異質な人や組織を結び付けるネットワークであると考えられている。

地域において、同じ事業で同じ額の補助金が自治体から支給されたとしても、その事業の成果(アウトカム)は地域間で異なるはずである。それは地域固有の何ものかが影響を与えているからである。さらに、地域産業政策として脚光を浴びる「産業クラスター」、企業内の情報共有のための「ナレッジ・マネジメント」、リスク・マネジメントを底流とする企業のCSR(社会的責任)など組織経営の最新のトピックの多くは「社員と社員の関係」「企業と企業との関係」「企業と地域との関係」に注目したものである。このような「関係」が経営の重要な資源なのであれば、地域のSCはまさに重要な地域経営資源であるといえることが出来る。

本」と訳されることが多いが、未だ定訳はない。

本シリーズでは、③SCとは何なのか、そして地域経営での位置づけ、④国内における計測状況・研究状況、そして⑤その醸成のための方策論について3回にわたって解説し、地域経

営心を集めることとなった。前書において、パットナムはSCを改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴」と定義している。そしてSCが豊かななら、人々は互いに信用し自発的に協力する、すなわち「集合行為のシレンマ」の最善な解決策、そして民主主義を機能させる鍵として提示したのである。

論においては、後者の開放的なSCが重要との基本的認識に立つことが多い。近年マスコミを賑わすことの多い、企業や団体の不祥事とその処理の不始末は、まさにこのような内部志向型の組織のSCに拠るところが大い。

SCを今後の地域活性化、地域再生のために必要不可欠な経営資源であるとの立場に立てば、それを計測し、コントロールしていく必要性が生まれる。パットナムの研究以降、OECDや世界銀行、イギリス政府などでの動きが先行していた。一方わが国でも内閣府や農林水産省、地方自治体においてその取り組みが始まりつつある。こうした動きについて次回詳細に紹介することとした。

#### ■SCの計測

そして「コントロールへ

### 日本総合研究所主任研究員 東 一洋



【略歴】神戸大卒業、広告代理店に入社、企業のマーケティング活動に携る。89年に日本総合研究所立派メンバーとして参画し、地域開発研究部、研究事業本部などを経て現在に至る。現在はパブリックセクターを中心に「PFI/PPP関連業務」「ソーシャル・キャピタル」「新産業創造」などの業務を担当。創造都市戦略クラスター長。



SCはいくつかのタイプに分けて論じられることも多い。その中でも、SCの概念を理解する上で最も基本的な分類が、「結合型(bonding)」と「橋渡し型(bridging)」

一般的に企業にとっての経営資源はヒト、モノ、カネの3要素といわれる。しかしながら、今後の地域経営を考えると、その地域での人と人との関係やネットワーク、それらが立脚す

SCを今後の地域活性化、地域再生のために必要不可欠な経営資源であるとの立場に立てば、それを計測し、コントロールしていく必要性が生まれる。パットナムの研究以降、OECDや世界銀行、イギリス政府などでの動きが先行していた。一方わが国でも内閣府や農林水産省、地方自治体においてその取り組みが始まりつつある。こうした動きについて次回詳細に紹介することとした。